

国内石油天然ガスに係る地質調査・メタンハイドレートの研究開発等委託費

資源エネルギー庁 石油・天然ガス課
03-3501-1817

平成30年度予算額 **226.9億円 (242.0億円)**

事業の内容

事業目的・概要

- 日本周辺海域に一定の資源量が期待される在来・非在来型の石油・天然ガスを安定的なエネルギー資源として利用可能とするため、「エネルギー基本計画」（平成26年4月閣議決定）等に基づき、資源量調査、技術開発等を実施します。

(1)国内石油天然ガス基礎物理探査

日本周辺海域の未探鉱地域において、三次元物理探査船「資源」により、石油・天然ガスのポテンシャルを把握するための調査を行うとともに、調査データの公開を通じ、我が国企業による探鉱開発活動を促進します。

(2)国内石油天然ガス基礎試錐

「資源」の調査結果に基づき、石油・天然ガスが存在する可能性が高いと判断された海域で基礎試錐（掘削調査）を実施します。

(3)メタンハイドレート開発促進事業

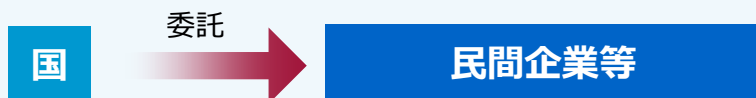
砂層型メタンハイドレートについては、第2回海洋産出試験で取得された成果の総合的な検証及び、生産坑井の廃坑作業等を実施します。

表層型メタンハイドレートについては、回収技術に関する調査研究や賦存状況の解明に向けた調査・分析等を実施します。

成果目標

- 三次元物理探査を年間約6,000km²、平成30年度までに概ね6.2万km²実施します。また、基礎試錐を機動的に実施するとともに、メタンハイドレートについては平成30年度を目途に、商業化の実現に向けた技術整備を行います。

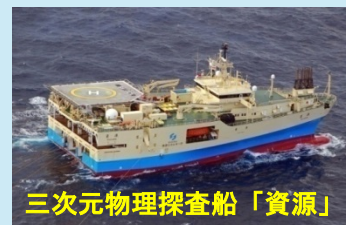
条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1)国内石油天然ガス基礎物理探査

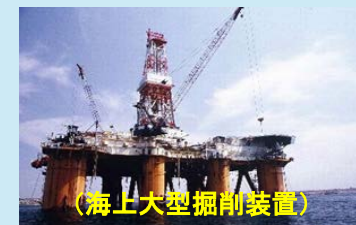
基礎物理探査



三次元物理探査は、地下の地質構造が空間的・立体的に把握できる高精度な探査手法。海中で人工的に音波を発生させ、地層境界面で返ってきた反射波を探査船から曳航したケーブルに内蔵した受信器でとらえて、地下の地質構造を調査するもの。

(2)国内石油天然ガス基礎試錐

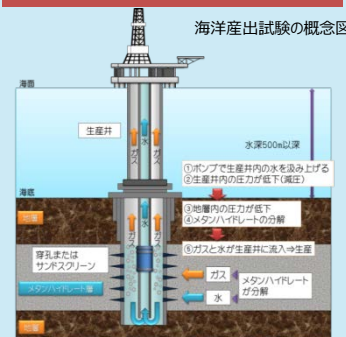
基礎試錐



石油天然ガスの存在や地質構造を具体的に確認するための掘削調査。物理探査等の結果をもとに、石油やガスが存在する可能性の高い地域を選定して実施。

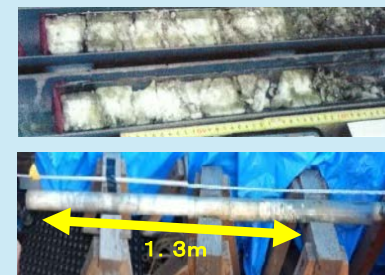
(3)メタンハイドレート開発促進事業

砂層型メタンハイドレート



第2回海洋産出試験で取得された成果の総合的な検証及び生産坑井の廃坑作業を実施

表層型メタンハイドレート



回収技術に関する調査研究や、賦存状況の解明に向けた調査・解析等を実施